

第 12 回 周南市スマートシティ推進協議会 議事要旨

■日 時：令和 7 年 3 月 2 5 日（火）15:00～16:05

■場 所：周南市役所 庁議室

■出席者：下表の通り

所属・団体名	役職	氏名	区分
周南公立大学 情報科学部	准教授	児玉 満	学識経験者
徳山工業高等専門学校 情報電子工学科	准教授	柳澤 秀明	
徳山商工会議所	指導課主任	船井 辰郎	関係団体 を代表する者
周南市社会福祉協議会	業務課地域福祉係長	竹重 紀代美	
周南市スポーツ協会	主査	砂田 優一郎	
周南市コミュニティ推進連絡協議会	副会長	加藤 洋	コミュニティ組織 を代表する者
山口県企画部デジタル推進局	デジタル統括監	田中 貴光	オブザーバー
周南緑地 P F I 事業者 (洋林建設株式会社)		山川 英一郎	

■配付資料

1. 第 12 回周南市スマートシティ推進協議会配席図
2. 周南市スマートシティ推進協議会委員名簿
3. 第 12 回周南市スマートシティ推進協議会資料

資料 1 今年度の取組について

資料 2 次年度の取組の方向性について

■要 旨

1. 開会

(事務局)

- ・ 本日は、委員 8 名中 5 名の出席をいただいておりますので、周南市スマートシティ推進協議会設置要綱第 6 条の規定により、本会議が成立していることを報告させていただきます。
- ・ 会議の開催にあたり、企画部長の川口よりご挨拶を申し上げます。

2. 挨拶

(事務局 企画部 川口)

- ・ 本日は年度末で大変お忙しいところ、ご出席いただきまして誠にありがとうございます。
- ・ 今回の会議におきましては、今年度の取組の総括、次年度の取組の方向性を議題としております。
- ・ 引き続き、モデル地区でデジタル技術を活用した課題解決に取り組むとともに、これまでの成果を市全域に広げ、市民に効果を実感していただくフェーズに入っております。
- ・ 今年度の取組を振り返りつつ、より良いまちづくりにつながる方向性や課題について、皆さまの忌憚のないご意見を賜りますようお願いいたします。

3. 議題

(副会長)

- ・ 本日、会長が欠席とのことで私のほうで代理を務めさせていただきます。
- ・ それでは議事に入りたいと思います。まず、今年度の取組について事務局から説明をお願いします。

(事務局)

(今年度の取組について説明)

(副会長)

- ・ ただいまの説明について、皆様に質問やご意見をお伺いしたいのですが、今回の話題にもあったモデル地区の地区公式 LINE について、地元であります委員から所感をいただけたらと思います。

(委員)

- ・ 今まで、いろいろやってきてですね、今月いっばいで、公式 LINE がいったん終了するということなんですけれども。一番苦勞したのは登録者をいかに増やして

いくかというところですよ。目標 200 に対して、まだまだ全然追いついてはいないんですけども。いろいろなイベントを通じてですね、登録のお願いをしてるわけですね。なかなかこの辺がですね、うまくいかない。うまくいかない理由の一つはですね、子どもであればお父さんに聞いてから、お母さんに聞いてから、とかですね。おじちゃんたちこれ本当に大丈夫なの、とかね。これ実際にあったんですよ。あとは、やはりどうしても高齢者に接する機会が多いものですから、なかなか高齢者の方々がですね、登録まで進んでいただけないというのがありました。登録するにあたって、名刺サイズのカードを作ってですね、それに QR コードを印刷して、担当者が、直接、手とり足とりやるわけなんですけども、高齢者自身で登録するとなるとですね、やはり少し抵抗があるのかなという気がしました。若い人については簡単にできるわけなんですけれども、高齢者については難しいところがあるのかなというところがあります。

- ・ それと、今から先のことはですね、事務局の運営をどうしていこうかということや、費用をどうしていこうかという問題がまだまだたくさん山積しておりますので、こういったものを 1 つ 1 つ解消していく必要があると感じています。

(副会長)

- ・ なかなか良い点、悪い点があるのかと思います。たぶん同じことをやろうと思ったら同じような問題が出てくるのかなと思ひまして、このあたりをしっかりと考えていかなければいけないところかなと考えております。
- ・ ミニフォーラムのほうに参加された委員からも何かあればお願いします。

(委員)

- ・ ミニフォーラムに参加させていただきました。周南公立大学の学生さんと意見交換することで、新しい気づきというか、いろいろ工学部の学生との考え方の違いっていうのを気づかせてもらいました。
- ・ 工学部の学生だと、何か物を作るシステムを作って課題を解決しようというアイデアを出そうとするんですけど、周南公立大学の学生さんたちはコミュニティを作って課題を解決しようと、工学部ではなかなか思いつかないようなアイデアを提案してまして、うまくこういうのが結びつけばいいなというのを感じました。

(副会長)

- ・ 私のところの学部の学生では多分ないので、経済学部ではないかと思うんですけど、考え方がちょっと工学とは違うところがあるかと思います。その辺りもまたうちは情報学部の間もおりますので、そういうのも交えていけば話も広がるかと思ひます。

- ・ そのほかご質問などがあればお願いします。

(委員)

- ・ 先ほどの公式 LINE の活用の部分なんですけども、私は商工会議所として、事業者さんにいわゆる SNS とか LINE を活用して事業をやっているという中で、先ほど登録者の話にもあったと思うんですけど、やっぱりいかに登録してもらえかが難しいっていうところがあって、もちろん呼びかけも大事なんですけど、やっぱり長く続けることが大事だっていうところが一つあると思います。実証実験だったとしても期間が限られるところもあってなかなかその効果が実感しにくい部分もあるんですけども、そういった中で、こういうものを続けることがまず大事なことであるかと思います。
- ・ やっぱり認知をされることによって登録者数も増えるし、それを当てにする人も増えるので、そういった中でですね、先ほどちょっと費用の話も、月税抜 5000 円で年間 6 万円になるとやっぱそれぞれの自治会からしたら結構な金額でもありますし、それを全部、市が見るかっていったらそれはまた難しい話だと思うので。そのあたりはある程度方針というか、公式 LINE を活用するという方向に舵を切れば、ある程度強制ではないにしても、こういうものを活用したいところには、呼びかけて、全部じゃなく一部を負担するとか、そういった中でですね、参入しやすい形でやるのが良いのかなとまず思いました。
- ・ いかにそういったものを活用して周知するかとかは課題ではありますが、私の日々の経験からするとそういった感じなのかなっていうのは思いました。

(副会長)

- ・ やっぱり継続していくことが重要かと思うので、今回の事業に関しても、これ次年度以降も続けられるんですかね。続けられるそうなので今のご意見も参考にさせていただけたらと思います。

(事務局)

- ・ 事務局から補足をさせていただきます。実証事業としては今年度で終了という形になりまして、次年度以降は各地域の皆さんにどのようにしていくかというところは決めていただいて、進んでいただくという流れになっております。

(副会長)

- ・ その他ございましたらお願いします。

(委員)

- ・ ちょっと聞いてみたいんですが、LINE のオープンチャットでの取組の話があったと思うんですけど、今まだ実証の段階で難しいかもしれないんですが、今後はこういう既存のデジタルツールを使ってやっていくのか、それともそうじゃなくて、全く新しいものを開発といいますか、作ってやっていこうっていうようなイメージなんですか。

(副会長)

- ・ 事務局でお願いできますか。

(事務局)

- ・ 今年度はLINE のオープンチャットを活用させていただいたところです。今後の話ということで認識いたしましたが、そちらにつきましては今年度の実証の結果を持って、実際にどういった機能が必要なのかというところも整理しながら既存のデジタルツールも含めて、どのようなものがこういった仕組みの中でより皆さんに受け入れてもらいやすいのか、どういった機能が必要なのかというところを鑑みながらやっていきたいと思っておりますので、まだ既存なのか、開発するのかというところまで現状で決まっているわけではございません。

(副会長)

- ・ そのほかご質問、感想あればお願いいたします。

(委員)

- ・ 先ほどの委員がお話しされたモデル地区での取組なんですけれども、LINE が入り口になるのは地域の方にとってもとてもハードルがそんなに高くなくて発信する方も受ける方も、うまくいけばすごく有効に活用できるんじゃないかなと思います。
- ・ ただ、やはり地域の方が地域だけで運用するっていうことになるとまたちょっとハードルがあがるので、ここにも人材面での支援ということで今後の課題に上がってますけれども可能な範囲での人材支援というところをぜひともお願いできたらと思います。そういった支援がいただけると地域の方も何とか自分たちでというような運用になっていくんじゃないかと思います。

(副会長)

- ・ それでは次に、次年度の取組の方向性について事務局から説明をお願いします。

(事務局)

(次年度の取組の方向性について説明)

(副会長)

- 今の説明に関して質問等をお伺いしたいと思います。質問だけではなく、今後、周南スマートシティデザインラボが実装されますのでこれについてもお伺いしたいと思います。これを実行することによって、いろいろな課題解決ができるようになっていくと思いますし、皆様方の立場はそれぞれ異なりますので、その立場から見てこういうものに参画することでみえてくるものなどあるのではないかと思いますので、お1人ずつご意見をお伺いしたいと思います。

(委員)

- 徳山高専としては、授業の一部で周南市の困りごとを解決するような、話し合いとか、話し合いをした結果を実装するようなシステムができたらいなというのを考えて、取組をしたいなと思っていたところではあるんですけど、授業と学外の活動の日程スケジュール等々ですね、なかなか合わずに思うように進まなかったところではあります。今後はですね、周南市の困りごとをいただいて授業の中で課題解決する取組をするとともにですね、資料の前の方にもありましたけど、有志の方々がシステムを作って、困りごとを解決する等する場合がありますので、そういうので解決をするような手伝い、サポートをできたら良いなと思っています。

(委員)

- 商工会議所という立場で申し上げますと、やっぱり地元の事業者さんの部分にはなってくると思うんですけど、ここがやっぱり課題解決っていう部分で、やはり企業としてってなるとある程度住民だったりあとは学生とか、そういったボランティア団体だったりとかがなかなか解決が難しいような案件は、おそらく企業とかに回ってくるのかなというイメージをしています。
- そうなってくると、ある程度お金がかかってくる部分ってなれば、規模が大きい大企業であればある程度余力はあるので、できる部分もあるんでしょうけど、基本的にはやっぱり中小零細企業がほとんどでございますので、そういった方にもやっぱ参画いただくっていう部分であればですね、課題がどういったものによるかにもよるんですけど、ある程度やっぱその辺の費用というか、かかってくる部分はあると思います。これをやるにあたってはまずそういった案件っていうよりは、さっき言った学校だったりとか、地元の住民だったりとか、あとはそういったボランティア団体とかがまずそういった掘り起こしだったりとか、課題があつてそれを会議していくっていうものからスタートのかなと。その後いろんな課題というか、なかなかそういった住民等で難しい案件に関しては企業が関わっていくという流れになるのかなとは思いました。

(委員)

- ・ 地域には課題について話し合う場がそれぞれ各地区あって、皆さん課題について話し合っているんですけども、いろいろな意見が出たりアイデアも出るんですけども、そこであったほうが良い仕組みをつくろうってなったときに、なかなか進まなかったりしてというような場面が多々あります。やはりそれは人とか、物、お金の面であったりするんですけども、何についてというようなテーマがどういったものになるかもあるんですけども、いろいろな団体と絡んで、いろいろなアイデアを出しながらというようなところで何か参画できればよいかなというように思っています。
- ・ 高齢者は特に世代的に若者とのスピード感が違うので、その辺もちょっと念頭に置いていただきながら合わせたものができたらいいかなと思っています。

(委員)

- ・ スポーツ協会としましては中学校の部活動改革、大きな業務として取り組んではいるんですけども、課題は多々ありまして、その中でも今、地域クラブ、地域の団体さんの登録がスタートしてる状況なんですけれども、その団体さん同士の交流とか、指導者同士の交流っていう部分で課題があたりするので、課題解決に向けて、このプログラムにのって解決していけるといいなと思ったりもします。これテーマが選定されていない状況だと思いますけど、ぜひこのスポーツの方もテーマとして取り上げていただけたら、ありがたいなというふうに思っています。

(委員)

- ・ 地域の課題というのは、何から言ってもいいかわからないくらいたくさんあるんです。本当に。とにかく数えきれないぐらいですね。例えば、最近周陽地区は、地域のことに對して、無関心な人が非常に多いということなんです。大都会ではありませんけども、隣に住んでいる人はわかってるんですけども、ちょっとお互いに声を掛け合ったこともないとかね。特に若い人にそうなんです。挨拶してもなかなか挨拶自体も返ってこないようなところもあるんです。小学校、中学校、高校とありますけれども、幼稚園も含めて、例えば、防犯についてもいろいろ地区の人から意見が出てくるんですけども、それをなかなか実現できなかったりですね。いろいろと難しいことばかりです、地区に住んでますと。なるべく自分に関わりたくないというような非常に悪い傾向があるわけなんです。我々は、いかに多くの人たちにいろんな行事にかかわってもらいたいというふうに思っているんですけども、なかなか無関心派が多いというのが一つです。それともう一つは、いろいろそのボランティアするにしても、やる人がもう決まっているんです。

それ以上増えていかないのでは例えば今回の周陽地区の公式 LINE にしても、一応 4 月から新しくなるわけなんですけども、担当者の中には、いつまでやったらいいんですかという人もいますよね。やはり課題というのが多すぎて、一遍にこういうものは難しいかなという気はします。

(副会長)

- ・ オブザーバーの方もお願いします。

(オブザーバー)

- ・ コミュニティですね。周南スマートシティデザインラボ、取組的には素晴らしいと思っていまして、すごくチャレンジングな取組かなと思っています。私、県のデジタル推進局に所属していまして、もう 3 年ぐらい前から同じような山口のシビックテックみたいな営みを使って課題解決を進めていこうということをやっています。やはり今お話しがあったように難しい問題ですよね。課題はたくさんある。それを解決する方々も意欲ある方もいるんですけども、それをどう継続していくか、だとかは日々悩んでいるところでした。この前、県の CIO 補佐官とも議論をする機会がありまして、その中で話があったのが、県もまずはやってみようということで取組を進めてきました。スキームもある程度、整理というか固まりつつあるとか参加する方々も増えてきて、ある程度一定の形になりつつあるっていうフェーズに県の方は来てるのかなっていう話なんですけど、やっぱり課題としては、それをどう継続していくかという話になるかなというところで。先ほどいろいろご意見あったと思いますが、ボランティア的な活動だけではどうしてもやっぱり継続が難しいというところもある、というところは、県の CIO 補佐官の方もおっしゃっていました。全国でいろいろそのシビックテックの活動とかやっていたらっしゃるところでも、大きな予算の話ではないにしても完全にボランティアだけでやっていたらとするとどうしても継続性であるとか、難しい部分もあるので、その辺はちょっと県としても次のフェーズとしてうまくやっていかないといけない時期に入ったかもしれないねって話がありましたということをご共有させていただきたいと思いました。
- ・ 周南のスマートシティデザインラボについては、幸いなことにというか、徳山高専さんもいらっしゃって、周南公立大学さんもいらっしゃって、まず学生さんとの連携で課題解決できる取組ができる良い地域かなと思います。冒頭申し上げたところに帰るとやっぱりその大学の中でも先生方、先ほど委員もおっしゃいましたが、授業の話とどう整理をするかみたいな話がやっぱり取り組む上であるのかなと思いますので、市の方の課題の設定であるとかっていうところもうまく高専、公立大学の取組とうまく方向性とかベクトルを合わせるような取組が増えていくと、より活性化できるのかなというふうに思います。

- ・ 取組としては素晴らしいと思いますし、スモールにアジャイル的にやっていくということは当然必要かなと思いますし、そちらの方がうまく進むと思うので、あとは課題解決の方向性とか参加者とか地域の方々もそうです。地域の方々も意欲のある方はたくさんいらっしゃるので、うまく価値を感じていただける、参加してやったね、嬉しいねと思わせるような活動にしていけたらなというふうには思います。

(副会長)

- ・ それでは続いてお願いします。

(オブザーバー)

- ・ 緑地事業の SPC から代表できておりまして、そちらの方でも公式ラインを作って情報発信をしております。6 年度の活動のところにもあったし、7 年度以降もあるんですけども、一方的に発信する情報に関しましては、今回、7 年度以降の活動も市の公式 LINE 拡充等がございますが、これはもう情報をどんどんどんどん活用、充実して発信する分には非常に便利になる方向しかないかなと思っております。もうこの災害時の情報発信もどんどんどんどんしてもらった方がやっぱり登録者数も増えますし、有効に活用できると思います。
- ・ 問題は次のステップの双方向でやるときに課題はたくさんあると思いますが、どうしても双方向になると発言するものしないもの、これはアナログの会議の場でもそうなんですけれども、どうしても内にこもって思っても発言しない人というのがかなり多く出てくると思います。そういう意味で今回この匿名性を持った方がいいのかどうかというのも今から出てくると思うんですけども、ある程度匿名性は確保して、もう自由に発言をする場を作る。ただそうすると、今度は悪用することもできますし、実行に移したときに、リアルな場で会ったり、活動するときには、その匿名性がなくなってしまう、そういう問題があるのでちょっと難しいんですが、その辺を今からちょっと実装段階で考えていかないといけないのかなと思います。
- ・ 周南スマートシティデザインラボが、7 年度から具体的に動き出すのかなと思っています。こちらが先ほど事務局の方からも説明がありましたが、変化がわかりづらい、どういうメリットがあるんだっていうのが今課題で出ている、7 年度はちょっと実装するので、だんだん目に見える形になるように活動するんだと思うんですが、確かにこの最後の 35 ページを見ても、ちょっとまだどういう形になるのかがわかりづらくてですね。これを見る限り、周南市と公立大と徳山高専とプラスアルファで企業と、この辺が主体となって動いていく。その上で、情報共有ツールというのがおそらくオープンチャットのようなイメージなのかもしれませんが、ここで話し合っ問題解決しようという動きだと思うんですが、やっぱ

りこの部分で具体的にちょっとテーマを絞ってやってみるしかないかなと思いました。これをやってみておそらくだんだんだんだん社会自体が慣れてきたら、どんどん発言も充実してくると思いますし、まずスマートシティ推進協議会が中心となって、周南市全体でちょっと慣れていかないと、社会を充実させないと、ちょっとなかなかすぐには難しいかなと思いました。10年前で言えばもうこんなこともしませんし、メールだけでもまだ抵抗がある時代もあったぐらいです。長い目で見てちょっとまずは動き出すっていうのが大事なかなと思いました。

(副会長)

- ・ 皆様の貴重なご意見等ありがとうございます。今年度最後になりますので、これだけは言っておきたいということがあればお願いします。

(委員)

- ・ 周陽では公式 LINE の勧誘カードを作っています。これを皆さんに配って実際に登録していただくようお願いをしています。

(副会長)

- ・ 良いですね。面白いと思います。
- ・ 委員の皆様、本日は貴重なご意見ありがとうございます。事務局からその他連絡事項はありますか。

(事務局)

- ・ 今年度も各取組において皆様に多大な御協力をいただきまして誠にありがとうございました。今後、取組を進める中で、より多くの観点によるご意見等をいただきたいため、本協議会の委員の追加も含めて、今検討を行っております。また、第13回の周南市スマートシティ推進協議会につきましては、正式な日時が確定してご連絡いたしますので、ご多用のところ恐れ入りますがご出席の程よろしくお願いいたします。
- ・ 今後も引き続き、ご理解、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

(副会長)

- ・ 以上で、本日の議事を終了します。委員の皆様、議事進行にご協力いただきまして、ありがとうございます。

6. 閉会

(事務局)

- ・ 以上で第 12 回周南市スマートシティ推進協議会を閉会します。

以上